

ゴミのない、ホタルが育つ椹野川をつくりたい！！

6月10日（土）「第33回宮野ホタルまつり」が開催され、おかげで大盛況のうちに終えることができました。ホタルの人工飼育を行なっている宮野小学校「ホタル委員会」が35周年を迎え、キャラクター『キラルン』が登場し、記念すべき「ホタルまつり」になりました。飼育状況や作文を掲示したパネルには多くの皆さんが足を止めて熱心に見られていました。この中から、4年生の河野未歩さんの作文を紹介します。



6年生委員によるもちまき&展示会



宮野中学校による吹奏楽



～知らなかったホタルのひみつ～

4年 河野 未歩

私の家のまわりには竹があるので、たくさんのホタルがふわふわと飛んでいます。それは、まるでホタル同士がおたがいに話しかけているような感じです。

先日、そう合的な学習の時間に、宮野小のホタルについて教えていただいたことがありました。

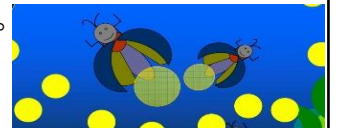
その中で、私がきょう味をもったことが三つあります。

一つめは、ホタルはなぜ光るのかということです。私は、夜は暗いから前が見えやすいように光っているのかと思っていました。けれど、本当は、自分の結婚相手を探すためだということが分かりました。また、成虫だけでなく、よう虫や卵が光るのは、敵をおどかすためだということも分かりました。

二つめは、よう虫達にも、人間と同じで、個性があるということです。ホタルならみんな同じだと思っていたけれど、のんびりしているホタルのよう虫は、他のホタルよりも一年おくれて成虫になるそうです。他にもどんなホタルがいて、とくぎもちがうのかなと思いました。

三つめは、ホタルはつかまえていいのだろうかということです。私の家の近くには毎年ホタルが来るので、つかまえそうになったことがあります。でも、宮野のゲンジボタルは国の特別天然記念物で、勝手につかまえてはいけないので、今度からは、つかまえないで観察したいと思います。

ホタルの親は、一回に二百から三百個も卵を産むそうです。私は、百個くらい産むと思っていたので、びっくりしました。



でも、この卵が全部成虫になるわけではありません。よう虫のえさになるカワニナがいるような川でないとホタルは育つことができません。私は川のゴミを一つでもなくし、宮野の川のかんきょうをもっと良くして、たくさんのホタルが飛ぶようにしていきたいです。